



あゆみ

No. 190

令和 8年 8月20日発行

編集 発行：社会福祉法人 啓明会 茗山寮・第二茗山寮

〒863-0006 熊本県天草市本町下河内 680

TEL 0969-22-5339・0969-22-1766 FAX 0969-22-5090

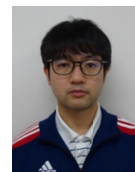
E-mail reizanryou@miracle.ocn.ne.jp・reizan2@muse.ocn.ne.jp

社会福祉法人啓明会ホームページURL <http://keimeikai.amakusa-web.jp/>

Instagram「れいざんのニコニコ日より」毎週火曜日更新中



稜南中学校
ワークキャンプ



『令和八年熊本地震』
施設長 鮎田 一喜

発生して三日後に書いてます。これが届く下旬にどれほど復旧しているかわかりませんが、皆様の無事と回復を願っています。今回は当日の様子を私の視点で少し綴ります。地震発生時少しの揺れからスマホの警告音が流れ、施設長室が大きく揺れる中利用者さん達のいるホールに向かいました。入った途端「座って！」と職員の声が聞こえ、一部の利用者さんはかがんで頭を手で覆いました。私は向かって走り出した利用者さんと共にかがんで、利用者さんの頭を身体で覆いました。一旦収まった後被害状況の確認を行い、第二茗山寮と連絡を取りました。両施設とも利用者さん、職員の怪我がないことを確認しました。対応中、多くのご家族から安否の電話をいただきました。その後、防災担当を含む職員達で、居室の確認と落下物防止のための移動を行いました。以降警告音が二度鳴りその都度ホールに集まった利用者さんに声を飛ばしました。が、大きな揺れは来ませんでした。次の日、理事長が電話で他施設の被害状況を確認し水が足りないとのことで車に備蓄の保存水と衛生用品を積んで職員二人と八代に向かいました。天草五橋を渡った先の道中は

多くの橋の継ぎ目が隆起・沈下しており、ゆっくり進まなければタイヤが破裂しかねないほどの段差もありました。物資を届けて帰った頃、県の施設協会ではオープンチャット（LINE）による情報共有が行われ、被害を受けた施設に必要な物を迅速に届けたり、支援・物資の重複避けなどの体制ができていました。届けた施設と物資をチャットで報告したその夜、警告音とともに震度五弱の地震が発生しました。その時も幸い被害なく、後日被害状況の伝達や職員の待機・参集の基準を定めるマニュアルの改正に繋げることができました。

現時点では、利用者さん、職員に怪我はありませんが、家屋に被害が出たご家族や職員もいます。地震は未だ続いており、私たちも他人事ではなく明日は我が身です。被害に遭わなかったからと安心せず、家庭を含めて備蓄の補充、車のガソリン、水道水などを用意して地震に備えています。茗山寮・第二茗山寮では食品・飲料水・消耗品を三日分備蓄しています。備蓄は自分を守ると同時に誰かを助けることにも繋がります。これからも助けると助かるを心がけて、できる援助は惜しまず、事業の継続ができるように社会福祉法人として使命を全うしていくつもりです。

サービスの現場より

『相談支援センターれいざんより』

第二苓山寮相談支援課長



坂本 城治

現在、熊本県相談支援従事者現任研修を受講しています。カリキュラムは講義六時間と演習は三日間となっており、研修期間中にはインターバル実習が設けられ基幹相談支援センターへ出向く実地研修もあります。六月から研修に入り、八月五、六日が最後の演習予定でしたが熊本地震の影響もあり、まだ研修の途中となっています。これまでに受けた演習等を通して、改めて相談支援専門員の役割は単に計画作成やサービスを調整することではなく、ご本人の思いや希望を丁寧に引き出し、その人らしい生活の実現と一緒に考えることが重要であると学びました。特に意思決定支援を踏まえたケアマネジメントにおいては本人の言葉だけでなく、これまでの生活歴や価値観、日々の様子や周囲との関わり等々から思いをくみ取り、多職種や関係機関と連携しながら支援していくことが重要であると感じました。意思決定は一度きりではなく、生活等の変化に応じて見直し続けるものだからこそ継続的な信頼関係が支援の質を左右します。普段からの小さな変化や表情、行動などからも思いをくみ取る姿勢が重要であり、それは相談支援専門員に限らず福祉従事者すべてに当てはまると思います。研修で学んだことを日々の業務の中で振り返り、意思決定支援の視点を意識しながら実践していきたいと思っています。

『担当利用者さんへの取り組み』

苓山寮支援副主任



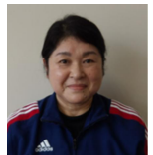
若山 慎

担当利用者様との関わりについて紹介させていただきます。昨年度入所されたRさんは、今年で二十歳を迎えられる十代の利用者様です。今年度の個別支援計画を立てていく際、本人の意思を汲み取りながら、「大人の経験を積む」という計画を提案させて頂きました。大人の経験といっても沢山あり、施設内の資源を活用しながら出来る経験も制限される状況で、最終的に「色んな方（支援員）とデートを経験してドキドキしよう」と言う具体的な計画を立てることになりました。そして、計画に沿って今年度初めてのデート相手はY課長です。年齢は非公算ですが、年齢よりも若見えが自慢の相手と熊本市内までのデート。Rさんにどんな気持ちが生まれ、経験を通してどう思われたかは不明ですが、帰寮された二人の様子は、デート前より明らかに仲良く見える結果でした。施設内で出来る事は限られています。柔軟な思考で支援を工夫すること、Rさんのように新しい利用者様、若い利用者様に様々な経験を積んでいただける様な支援を今後も考えていこうと思っています。

『担当利用者さんへの取り組み』

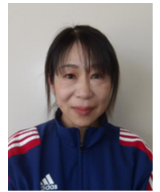
第二苓山寮支援員

沢村 仁美



私が担当しているYさんは、若い頃農耕班に所属されていたそうです。ふとした日常会話の中でご本人より「畑作業は得意だ」と話されたことから、からいも作りを始めて現在、四年目に入りました。一年目の頃は、ご自分の足で畑まで歩いていましたが、現在は高齢となられ下肢筋力の低下等もあり車椅子での移動となっています。それでも収穫の日をとっても楽しみにされており、芋畑からいも掘りをしながらうれしそうな表情で笑う姿がまた見れるようにするために、負担にならない程度で手すりを使っての足踏み運動を行っています。

又、最近はお話をされることが少なくなってきたようですが、昔のことは嬉しそうにお話されることからアルバムを見ながら昔話を傾聴し、一緒に楽しんでいます。肩もみも昔から上手なので、指のリハビリ運動もかねて依頼があった時に行っておられ、楽しみの一つになっています。今後もYさんが、安心、安全に楽しく生活できるように支援していきたいと思っています。



『障害支援区分認定調査員研修』

第二荇山寮

支援副主任 若田 香

障害支援区分とは、障害者等の障害の多様な特性、その他心身の状況に応じて必要とされる標準的な支援の度合を総合的に示すものとして、障害者総合支援法に基づき定められています。全国共通の基準で公平・公正に福祉サービスの必要性を判定するためのものであり、支給決定の基礎となる重要な制度です。今回、認定に係る調査員としての知識や基本姿勢等を習得する研修に参加させて頂きました。研修では、区分の概要から八十項目に及ぶ調査項目の判断基準等、認定調査における多くのポイントを学びましたが、中でも「特記事項」の書き方の重要性が強調されました。市町村審査会が対象者を明確にイメージできるよう、具体的な状況や頻度、支援内容を詳細に記述することが求められ、情報提供の内容が判定に大きく影響することを改めて実感しました。現在、私は認定調査に「受ける側」として携わり勉強しているところです。対象者の状態や特性を正確に把握し適切な情報を提供することで、必要なサービスや支援に繋げることができるよう、経験を積み重ね、専門性を高めていきたいと思っています。



『九州地区知的障がい者関係施設職員研修大会』

荇山寮支援員 松本 健史

分科会では意思決定支援について学びました。その中で、上手く表現出来ない・伝えられない方の意思を、その方の表情や声・行動等の小さな事からでも推測・推定を行い、絵カードや具体物等の視覚的アプローチや記録、データ等から最善の解釈を行う事が大切である。「自身で意思決定できる支援」自己決定できた事による「幸福感」に繋がると話されており、今後その事を意識して支援を行いたいと思いました。又、意思決定支援の際には、時には、その方の為に重要な事は必ずしもその方にとって重要ではない事もあるとの話も印象的でした。支援する側の立場でその方にとって良いと思って行った事も、支援される方は良く思わない事もあるのだと再認識しました。記念講演では、人と人との繋がりは、信頼関係が一番重要だと改めて振り返る事が出来ました。私達の支援の中でも利用者との信頼関係が重要であり、信頼関係を構築する為にどうしたら良いかを考え、行動に移したいと思いました。他施設の方と色々な話や情報交換をする機会があり、交流する良い機会となりました。



『メンタルヘルス研修』

荇山寮相談支援専門員 和田 卓巳

「スマホの充電が10%になると慌てて充電器を探すのに、自分の心の充電が10%になっても『まだ大丈夫』と思ってしまう。」このような状態になっている人は意外と多いのではないのでしょうか。心は目に見えないため、不調に気づきにくく、知らないうちに疲れをため込んでしまいがちです。現代では仕事や人間関係、SNSなど、さまざまな場面でストレスを感じる機会が多く、ストレスを完全になくすことは難しいため、上手に付き合う方法を身につけることが大切です。十分な睡眠や適度な運動、好きなことに没頭する時間をつくることに加え、一人で抱え込まず誰かに相談することも、心の健康を守るための重要な方法です。今回の研修を通して、メンタルヘルスは特別な人だけの問題ではなく、誰もが向き合うテーマであると改めて感じました。また、自分自身だけでなく周囲の人の「いつもと違う」に気づき、声を掛け合える職場づくりも大切であると学びました。体だけでなく心にも定期的な「充電時間」を設けることを意識し、今後の生活や仕事に活かしていきたいです。

家族交流会

6月18日

家族交流会が行われました。参加頂いたご家族の方ありがとうございました。今年度は陶芸、チームA、棟内活動に分かれ普段の活動の様子を見て頂きました。天候に恵まれず、外での活動は出来ませんでしたが、ご家族の方へ活動内容を知って頂き、一緒に体験出来た良い機会になったと感じています。七夕飾りにもそれぞれの思いが書かれており、皆さんで作りに上げられた素敵な壁面となりました。



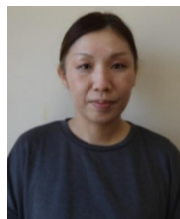
運動会

7月8日

天草市民センターにて苓山寮・第二苓山寮合同の運動会が開催されました。ご家族も応援にご来場頂いたり、競技にご参加頂き大盛り上がりでした。運動会では利用者さんも日頃のない興奮と感動があったようで、大きな声で応援したり、皆で大喜びしたりで「楽しかったー」とご好評のお声をいただきました。来年も皆で元気に開催できればと思います。



【新入職員】



竹寄 智美さん
第二 苓山寮 支援員

これからよろしく
お願いします。



『稜南中学校ワークキャンプ』

天草市社会福祉協議会と連携し、次代を担う中学生を対象に人との関わりや支え合うことの大切さを体感してもらい、自ら学び成長してもらうことを目的に実施しております。生徒二三名が参加され、利用者さんと一緒に歩行や清掃活動、食事介助、レクリエーション等を体験されました。利用者さん、生徒さんともに笑顔でコミュニケーションをとられており、福祉について関心を持つていただく機会の一助となりました。



日常生活の風



魚住 誠二さん

挨拶を行う時には職員とグータッチをしてくださる、とても笑顔が素敵な方です。活動では主に廊下や居室の雑巾掛けや、天気の良い日には木漏れ日コースや施設周辺の歩行に取り組んでおられます。

今年度からはチームA活動の一員としての活動にも取り組まれ、あましんスタジアムや十万山フラワールード等の散策をされたり、空き缶潰しや数字や物のマツチング訓練を行われています。



園田 健斗さん

令和七年四月に苓山寮より、第二苓山寮へ入所されました。YouTubeで

好きな歌手の動画を観ることが大好きで、職員に「この動画を保存して下さい」と依頼して、居室で良く見られています。又、屋外での活動もとても好まれており、最近はお墓掃除活動に積極的に取り組まれています。第二苓山寮へ入所以降、少しずつ増え続けていた体重も、毎日の運動で現状維持が出来ており、今後も本人の楽しみを増やせるようにしていきたいと思っています。

行事予定

九月

一日

えがおの会

敬老会

オープンカフェ

敬老の日

国民の休日

秋分の日

感染症訓練

三十日

十月

二日

秋祭り

六日

えがおの会

一二日

スポーツの日



編集後記

厳しい暑さが続いています。皆様いかがお過ごしでしょうか。今年の夏も連日の猛暑となり、天草でも熱中症への注意が欠かせない毎日です。当施設でも室温の管理や水分補給、活動内容の変更を行い利用者の皆様が元気に過ごせるよう取り組んでいます。また、令和八年熊本地震では県内各地で被害が発生し、多くの方が不安な日々を過ごされたと思います。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。当施設では被害は無かったものの決して他人事ではなく自然災害の恐怖を体感し、改めて日頃の備えや人と人との支え合いの大切さを感じました。これからも利用者の皆様が笑顔で安心して過ごせる施設づくりに努めてまいります。まだまだ暑い日が続きますので、どうぞお身体を大切に過ごしてください。